

# 医師の働き方改革への取り組み

独立行政法人 広島市立広島病院機構  
**広島市立広島市民病院**  
病院長 荒木 康之

1

## 広島市立広島市民病院

病床数743床（一般715床、精神28床）

医師	297人
看護師	1,077人
医療技術職	237人
事務職	258人
技能業務職	122人
計	1,991人

2019.4.1 時点

2

# 平成30年度 診療実績

一日平均入院患者数	712.1 人
一日平均外来患者数	1794.4 人
病床稼働率	95.8 %
平均在院日数	11.6 日
紹介率	73.7 %
逆紹介率	94.4 %
救急車受け入れ台数	6.876 台

3

## 広島市民病院の機能

- 地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- DPC 特定病院群
- 総合周産期母子医療センター
- 救命救急センター
- 地域災害医療センター
- ER型救急
- エイズ治療ブロック拠点病院
- 特定集中治療室管理料 1 (Super ICU)
- ハイブリッド手術室 (大動脈ステント・TAVI)

4

# 平成29年度の取り組み

## 1. 職場の風土の改革

- 職員ごとの定時退勤日を設定する
  - 所属長による面談の実施
    - ☞ 自己の働き方
    - ☞ 時間外労働
    - ☞ ワークライフバランス
- } 職員の意識確認

## 2. 平日の働き方改革

- 時間外勤務の上限時間を決める（急患対応は除く）
- 委員会の統廃合・委員数の削減の検討
- カンファレンスの短縮

5

## 3. 土日の働き方改革

- 患者家族からのIC要請には応じない
- 病棟巡回を当番医で行う

## 4. 当直明けの翌日勤務

- 当直明けの年休取得の簡素化

## 5. 所属長による部下の時間外労働の把握

- 時間外労働の途中経過を把握する

## 6. その他

- 外来の縮小 ■ システムの導入
- 診療の質を落とさずにできないか

6

# 時間外勤務の適正な管理の徹底

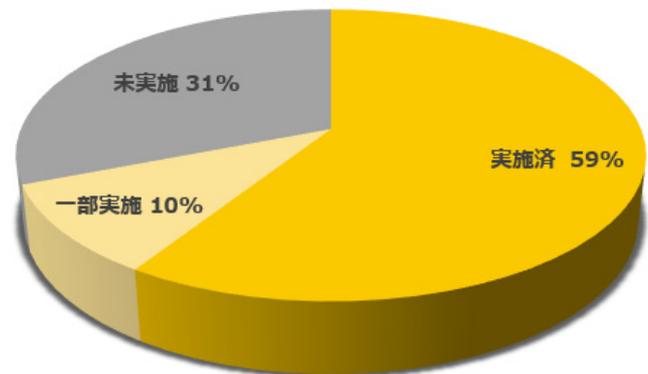
1. 事前命令・事後承認が原則
2. 適正な命令と申請を行う
3. 時間外削減の意識を持つ
4. 業務分担の適正化に取り組む
5. 時間外勤務の上限時間を意識する
6. 休憩時間を取得する
7. 適切でない事例を提示する

7

## 平成29年度取り組み 結果

### 1. 所属長の責務

- ・ 実施済み 59%
- ・ 一部実施 10%
- ・ 未実施 31%



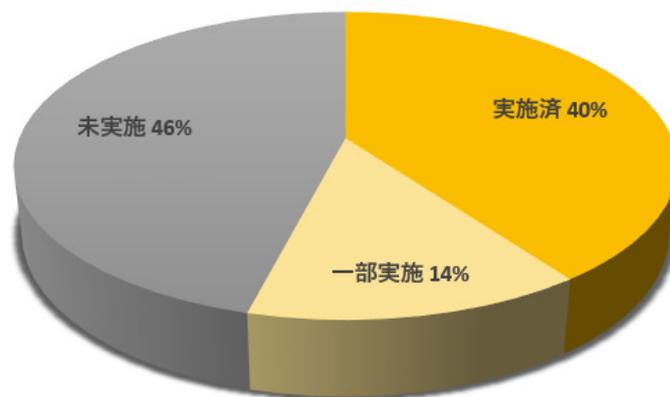
### ●<sup>n\*</sup> 問題点 ●<sup>n\*</sup>

- ☞ 人員不足で十分取り組めない
- ☞ 業務量の増加、業務内容の煩雑化
- ☞ 指示による入院・手術患者対応に尽力し、取り組めない

8

## 2. 定時退勤日の設定

- ・ 実施済み 40%
- ・ 一部実施 14%
- ・ 未実施 46%



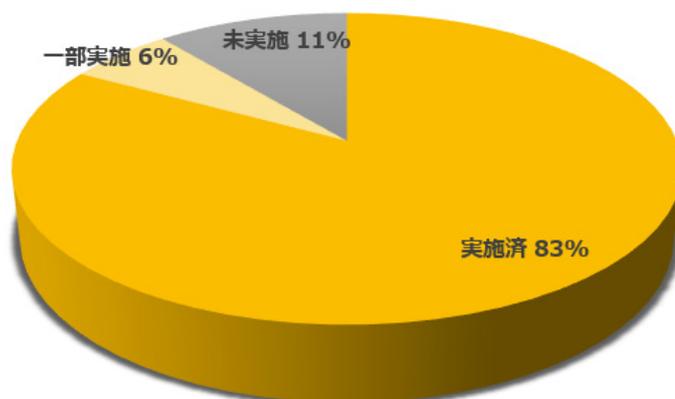
### ●<sup>n\*</sup> 問題点 ●<sup>n\*</sup>

- ☞ 設定したが、手術などが入り、実施できない
- ☞ 定時退勤日を設定すると、他の日に業務が集中するので、希望者が現れない

9

## 3. 患者や家族への説明

- ・ 実施済み 83%
- ・ 一部実施 6%
- ・ 未実施 11%



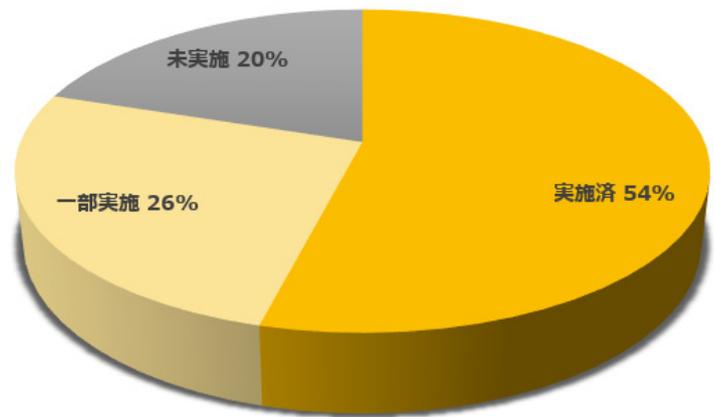
### ●<sup>n\*</sup> 問題点 ●<sup>n\*</sup>

- ☞ 家族の都合を考慮せざるを得ない場合がある

10

## 4. 閉院日の病棟業務

- ・ 実施済み 54%
- ・ 一部実施 26%
- ・ 未実施 20%



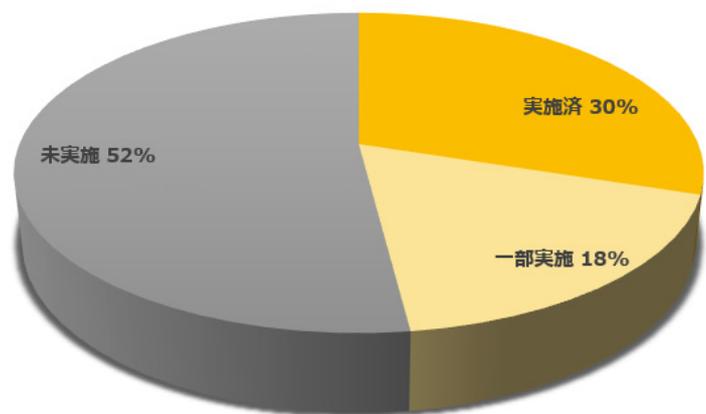
### ●<sup>n\*</sup> 問題点 ●<sup>n\*</sup>

- ☞ 術後患者がいる場合は、状態を診るために出勤する
- ☞ 交代で休日回診を呼び掛けているが不十分
- ☞ 上級医と研修医が一緒に行くことで、指導と研修を兼ねているため、単純に当番で解決できない

11

## 5. 当直明けの負担軽減

- ・ 実施済み 30%
- ・ 一部実施 18%
- ・ 未実施 52%



### ●<sup>n\*</sup> 問題点 ●<sup>n\*</sup>

- ☞ 当直明けに業務を行ってもらわないと他の医師の負担が激増する
- ☞ 当直明けは、定時退勤を原則とし、主治医手術を避けているが、不十分

12

## 平成30年度取り組み

### 1. 勤怠管理システムの導入

### 2. 後期研修医の

#### 救急科勤務体制の見直し

準夜勤務、深夜勤務を

平日のみ 20時～翌3時の時間外対応 に変更

### 3. 逆紹介の推進を掲示

13

## 令和元年度取り組み

### 1. 毎月の時間外勤務状況を所属長に配布

部下の時間外勤務削減の指導を要請

### 2. 所属長による部下への面談を実施

### 3. カンファレンスを出来る限り、時間内に実施

### 4. 時間差出勤の活用

14

# 医師と看護師、医療技術職、事務職 との役割分担

業務	内容	対応者
診断書診療録などの 代行入力	診断書・診療録・処方箋については、医師の補助者として記載を代行し、医師の承認を得る	事務
診察や検査予約	医師の正確な判断・指示の下、代行入力を行う	事務

15

業務区分	内容	対応者
患者・家族への 事前面談および 補足説明など	医師の治療方針の決定や病状の説明の前後に看護師などが事前面談を行い、情報収集や補足説明を行う	看護師など (入院支援室)
採血・検査に 関する説明	採血・検査説明については保助看法、臨床検査技師に関する法律に基づき、看護師、臨床検査技師の適切な業務分担を行い、実施する	看護師 臨床検査技師

16

業務区分	内容	対応者
薬剤管理	医師の治療方針の決定や病状の説明の前後に看護師等が事前面談を行い、情報収集や補足説明を行う	薬剤師 看護師
医療機器管理	採血、検査説明については保助看法、臨床検査技師に関する法律に基づき、看護師、臨床検査技師の適切な業務分担を行う	臨床工学技士

17

業務区分	内容	対応者
物品の運搬	看護補助者の活用、SPDの活用並びに物品運搬システムの整備により実施	看護補助者
患者の検査室への移送	患者の状態などを踏まえ総合的に判断した上で、医療的処置の必要がない患者については看護補助者の移送を実施	看護補助者

18

# 平成28年度の時間外労働の実態

	職員数	年間実人数		
		360時間超	720時間超	900時間超
医師	276	165	119	62
医療技術	230	24	5	3
看護師	1,005	39	0	0
事務	273	33	7	2
業務員	126	0	0	0
<b>合計 (人)</b>	<b>1,910</b>	<b>261</b>	<b>131</b>	<b>67</b>

19

## 時間外労働時間の推移 (全体)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (12月まで)
80~100 h	506	531	526	410
100 h超	143	190	99	75
<b>合計 (人)</b>	<b>649</b>	<b>721</b>	<b>625</b>	<b>485</b>
年度時間外合計	414,610 h	413,201 h	354,722 h	268,111 h
1人平均時間外	21 h	20 h	17 h	17 h

20

# 時間外労働時間の推移（医師）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (12月まで)
80～100 h	466	497	491	406
100 h超	115	170	62	74
合計 (人)	<b>581</b>	<b>667</b>	<b>553</b>	<b>480</b>
年度時間外合計	171,683 h	170,822 h	178,002 h	147,491 h
1人平均時間外	<b>55 h</b>	<b>55 h</b>	<b>54 h</b>	<b>58 h</b>

21

## 結 語

- 医師負担軽減についての取り組みを行ってきたが、十分な成果は上がっていないのが当院の現状である
- 収支の改善と働き方改革に対し、どう整合性を取るのかに一番悩んでいる

22